

2. 3 SSH授業報告（英語分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

自分の考えや意見を相手に正確に伝えるためには、論理的な展開をする必要がある。課題研究等で自分の意見を相手が理解しやすいように伝えるために、パラグラフィティングの書き方の基礎を身に付けることをねらいとした。

(2) 研究開発の経緯

自分の意見を英語でまとめていくにあたり、その流れをステップを踏んで身に付けていけるようにした。具体的には、ブレインストーミング、関連付け、構成、肉付け、パラグラフィティング、推敲までをそれぞれ独立したステップとしてプリントを作成した。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

SSH事業の目標の一つである「コミュニケーション力」の育成のために、英語での発信力を高める。ブレインストーミングなどの思考のプロセスを実際に体験することを通して、日本語とは異なる英語の論理展開の方法を学ぶことができる。

イ 研究の内容・方法

該当教科 SSH英語発展

対象生徒 普通科2年理系生徒 5学級

実施日程 12月中に各学級4時間を特別授業として実施した。

指導内容

(ア) ブレインストーミングについて

プリントの例を参考に、多くの視点をもって問題に向き合う。

(イ) 関連付け

グループで相談しながら、ブレインストーミングで出されたアイデアを線で結び付け、関連付けていくマインド・マップ作りを行う。

(ウ) 構成

論理展開のアウトラインとして、トピックセンテンスを作成し、サポートセンテンス、まとめの文も作成する。前時で考えたマインド・マップを活用して考える。

(エ) 肉付け・推敲

アウトラインで作成したセンテンスを基にして、さらに具体的に説明や例示を加えていく。また、自分で作成したパラグラフが論理的な展開になっているかを見直し、チェック項目に従って推敲する。

ウ 検証（成果と反省）

(ア) 成果

普段は主に日本語の短文英訳を授業で取り扱ってきたので、まとまった時間をもってパラグラフの書き方を指導する場面がほとんどなかった。今回の実践で、一つひとつのステップをしっかりと時間をかけて行ったことで、普段はなかなかまとまった文章を書くことができない生徒でも論理的な文章を書くことができた。また、スピーチやディスカッションにつながるブレインストーミングなどの方法も実体験する機会となった。

(イ) 反省

SSH英語発展という授業の中で、正しい英文法や英語表現を身に付けて発信していくことができるような授業展開が多くなっているが、正確さと流暢さはよく車の両輪に例えられるほど、どちらも大切なものである。今回の実践のように、きちんとステップを踏むことで既存の知識からまとまりのある文章を書くことができることを生徒たちは実感することができた。その上で、コミュニケーションを円滑にするためにどこまで流暢さも高めていけるかが今後の課題である。